

Page 1 / 1 dialog pat. emt+ <1> FENICS-ROAD

s pn=jp 8169809

S1 1 PN=JP 8169809  
?t 1/7/1

1/7/1  
DIALOG(R)File 352:Derwent WPI  
(c) 2001 Derwent Info Ltd. All rts. reserv.

010861507

WPI Acc No: 1996-358458/199636

Film-type agent for making beauty pack - contains specified amts.  
copolymer prepd. from at least one acrylic monomer selected from  
alkyl(meth)acrylate, (meth)acrylic acid and styrene, and PVA

Patent Assignee: KANEBO LTD (KANE )

Number of Countries: 001 Number of Patents: 001

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Week
JP 8169809	A	19960702	JP 94334161	A	19941216	199636 B

Priority Applications (No Type Date): JP 94334161 A 19941216

Patent Details:

Patent No	Kind	Lan	Pg	Main IPC	Filing Notes
JP 8169809	A		4	A61K-007/00	

Abstract (Basic): JP 8169809 A

Agent contains 0.5-10 wt.% of copolymer prepd. from at least one  
kind of acrylic monomer of alkyl acrylate, alkyl methacrylate, acrylic  
acid or methacrylic acid or their salts and styrene and 1-20 wt.% of  
polyvinyl alcohol, where the ratio of these components is 1:1-1:40.

ADVANTAGE - The agent gives a stimulus to skin and is good at  
removing dirt and keratin.

Dwg. 0/0

Derwent Class: A14; A96; D21

International Patent Class (Main): A61K-007/00

International Patent Class (Additional): A61K-007/48

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-169809

(43) 公開日 平成8年(1996)7月2日

(51) Int.Cl.<sup>5</sup>

A 6 1 K 7/00

7/48

識別記号

U

J

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 1 F D (全 4 頁)

(21) 出願番号

特願平6-334161

(22) 出願日

平成6年(1994)12月16日

(71) 出願人 000000952

鐘紡株式会社

東京都墨田区墨田五丁目17番4号

(72) 発明者 藤原 啓子

神奈川県小田原市寿町5丁目3番28号 鐘

紡株式会社化粧品研究所内

(72) 発明者 引間 俊雄

神奈川県小田原市寿町5丁目3番28号 鐘

紡株式会社化粧品研究所内

(72) 発明者 手塚 敬三

神奈川県小田原市寿町5丁目3番28号 鐘

紡株式会社化粧品研究所内

(54) 【発明の名称】 皮膜型バック剤

(57) 【要約】 (修正有)

【目的】 密着性および皮膚への刺激性に優れ、角栓の除去に優れた皮膜型バック剤を提供する。

【構成】 (a) アクリル酸アルキルエステル、メタクリル酸アルキルエステル、アクリル酸、メタクリル酸からなる群より選ばれる1種以上のアクリルモノマーとスチレンからなる共重合体またはその塩と、(b) ポリビニルアルコールを含有する皮膜型バック剤。

## 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 (a) アクリル酸アルキルエステル、メタクリル酸アルキルエステル、アクリル酸、メタクリル酸からなる群より選ばれる 1 種以上のアクリルモノマーとスチレンからなる共重合体またはその塩が 0.5~10 重量%と、(b) ポリビニルアルコール 1~20 重量%を含有し、かつ (a) 成分と (b) 成分との重量比が 1:1~1:40 であることを特徴とする皮膜型バック剤。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、皮膚刺激を与えることなく、皮脂、角栓等の汚れを除去する効果に優れた皮膜型バック剤に関する。

## 【0002】

【従来の技術および発明が解決しようとする課題】美肌・整肌効果を与える化粧料としてのバック剤は、1) 張り潤いの付与、2) 皮膚水分の保持、3) 保水成分の経皮吸収、4) 清浄作用を与えるものとして広く用いられている。特に 4) 清浄作用を目的としたバック剤は皮膜剤としてポリビニルアルコールが用いられ、汚れを吸着するものが多く発売されている。また吸着力を高めるために酸化チタン等の顔料を配合することが行われている。

【0003】このために、ポリアクリル酸類からなる乾燥性フィルム状ないしシート状バック剤（特開昭 58-180408 号公報）や、ポリアクリル酸ソーダ等の層を設け使用時に水を付与するシート状バック剤（特開昭 60-165902 号公報）が提案されている。

【0004】さらに、水と非水溶媒に可溶性または膨潤性を有する高分子と非水溶媒にのみ非水溶媒に可溶性または膨潤性を有する高分子を必須とするシート状バック剤（特開平 3-294213 号公報）等の多数のシート状バック剤が提案されている。

【0005】しかし、これら従来の皮膜型バック剤は、皮脂や角栓等の汚れを吸着するための密着感が十分ではなく、その清浄作用も十分とはいえなかった。また密着感が強いものは、バックを剥離する際に皮膜への刺激感が強く実用上満足のいくものではなかった。

【0006】本発明者らは、上記の従来技術の問題点を解決し、より優れた皮膜型バック剤を提供すべく鋭意研究した結果、本発明に到達した。すなわち、本発明は、密着性、皮膚への刺激性等の実用性に優れ、肌の汚れの除去、特に鼻のまわりや額の角栓や、皮脂の除去に優れた皮膜型バック剤を提供することを目的とする。

## 【0007】

【課題を解決するための手段】上記の目的を達成するために、本発明の皮膜型バック剤は、つぎのような構成をとる。すなわち、(a) アクリル酸アルキルエステル、メタクリル酸アルキルエステル、アクリル酸、メタクリル

ル酸からなる群より選ばれる 1 種以上のアクリルモノマーとスチレンからなる共重合体または塩が 0.5~10 重量%と、(b) ポリビニルアルコール 1~20 重量%を含有し、かつ (a) 成分と (b) 成分との重量比が 1:1~1:40 であることを特徴とする皮膜型バック剤である。

【0008】以下、本発明の構成について詳述する。本発明に用いられる、(a) 成分であるアクリル酸アルキルエステル、メタクリル酸アルキルエステル、アクリル酸、メタクリル酸からなる群より選ばれる 1 種以上のアクリルモノマーとスチレンからなる共重合体は、アクリル酸、メタクリル酸のアルキルエステル、アクリル酸、メタクリル酸と、スチレンとを共重合したポリマーの粉末またはポリマーをアンモニウム塩あるいはナトリウム塩にして水に分散させたポリマーエマルションである。

【0009】なお、アクリル酸アルキル、メタクリル酸アルキルのアルキル基はメチル基、エチル基、プロピル基、ブチル基、オクチル基、ラウリル基等が挙げられ、オクチル基を主たるアルキル基とするものが好ましい。本発明ではこれらの単品または混合物が用いられる。本発明に用いられる (a) 成分のうち、エマルションタイプとしては、たとえばヨドゾール GH 49 [カネボウ NSC (株)] 等がある。

【0010】(a) 成分の、本発明の皮膜型バック剤への配合割合は 0.5~10 重量%である。その量が 0.5 重量%未満の場合密着感が弱く、また 10 重量%を超える場合密着感が強く刺激感が感じられ好ましくない。

【0011】本発明に用いられる、(b) 成分のポリビニルアルコールは公知の物質であり、その製造方法により重合度は異なるが、本発明では特に限定されるものではない。

【0012】(b) 成分の、本発明の皮膜型バック剤への配合割合は 1~20 重量%が好ましい。その量が 1 重量%未満の場合フィルム強度は弱くなり、また 20 重量%を超える場合伸びが重いなど使用感が悪く好ましくない。

【0013】上記皮膜型バック剤中には有効成分として、アミノ酸、糖類、多価アルコール等の保湿剤、エタノール、着色剤、香料、界面活性剤、防腐剤、ビタミン類あるいは細胞賦活剤等の薬効成分、増粘剤、酸化防止剤、顔料等を適宜添加することが可能である。

【0014】製造方法は、まずポリビニルアルコールを水に分散させこれにアクリル酸アルキル・スチレン共重合体他各種成分を順次添加し、混合分散させることにより調製する。

【0015】使用方法としては、皮膜型バック剤を顔面に塗布し 5~30 分かけて皮膜を乾燥させた後顔面から剥離する。

## 【0016】

【実施例】以下実施例、比較例により本発明を具体的に

## 3

説明する。なお、本発明に用いた評価方法はつぎの通りである。

## 【0017】(1) 皮脂の除去効果

健常人30名の額の右側に、後記実施例で調製した皮膜型バック剤を使用し、剥離直後に直径2cmのカップを額にあて、エーテルで残存皮脂を抽出した。この残存皮脂量を液体クロマトグラフィーで定量した。結果は、バック未使用部位(額の左側)の皮脂量に対する残存率の平均値で示した。

## 【0018】(2) 角栓除去効果

健常人30名の鼻の左側に3×3cmの部位を設け、この部位に2gの皮膜型バック剤を塗布した。30分乾燥さ

## 4

せた後バック剤を剥離しバック剤に付着している角栓の数を数え、平均値を算出した。

## 【0019】(3) 官能評価

健常人30名が3日おきに2週間、後記実施例の皮膜型バック剤を使用し、①洗浄効果、②刺激感について評価した。結果はそれぞれ、きれいになった、刺激が感じられたと回答した被験者の人数で示した。

## 【0020】実施例1～4、比較例1～2

## 【0021】(組成)

## 【0022】

## 【表1】

原料成分	配合量(重量%)
(A) ポリビニルアルコール キサンタンガム 精製水	表2に記載 0.2 総量を100とする残量
(B) エタノール 1,3ブチレングリコール メチルパラベン POEソルビタンモノラウレート 二酸化チタン	7.0 1.0 0.1 0.2 5.0
(C) ヨドゾールGH49	表2に記載

【0023】(調製法) (A)成分を約80℃に加熱し、均一分散した後冷却し、約50℃にて(B)成分および(C)成分を添加し攪拌し、30℃まで冷却して各皮膜型バックを調製した。なお、使用したヨドゾールGH49〔カネボウNSC(株)〕は、ポリマー純分が4

7%の水系エマルションである。

【0024】本発明に係わる成分の配合量を表2に示す。

## 【0025】

## 【表2】

	ポリビニルアルコール (重量%)	ヨドゾールGH49 (重量%)
実施例1	15.0	3.0
2	10.0	1.5
3	5.0	10.0
4	18.0	7.0
比較例1	0.05	0.1
2	25.0	15.0

【0026】実施例および比較例について、前記評価結果を表3に示す。

## 【0027】

## 【表3】

	皮脂除去効果 (%)	角栓除去効果 (個)	官能評価	
			洗浄効果 (人)	刺激性 (人)
実施例 1	35.0±3.2 *	48.0±5.2 *	29	0
2	37.0±4.0	42.6±3.8	28	0
3	33.2±3.7	45.8±6.3	30	0
4	32.8±2.5	42.0±3.2	29	0
比較例 1	11.5±2.5	16.1±3.2	0	0
2	34.5±4.7	41.0±5.8	28	21

\* [平均値±標準偏差]

【0028】表3に示すごとく、本発明の実施例1～4は諸特性において良好な結果を示した。一方、(a)成分ヨドゾールGH49が少ない比較例1では洗浄効果が悪く、また多い比較例2では皮膚刺激が強かった。

【0029】

【発明の効果】以上記載のごとく、本発明は、密着性、および皮膚への刺激性に関する総合評価に優れ、皮脂、角栓の除去に優れた皮膜型バック剤を提供ことは明らかである。